

研究課題 (テーマ)	よろずレポート相談所(年次を超えて学生同士が教え合い学びあう教育)		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	知能ロボット工学科	准教授	野田 堅太郎
	知能ロボット工学科	教授	小柳 健一
	知能ロボット工学科	講師	岡崎 聡
	知能ロボット工学科	講師	松本 賢太
研究結果の概要			
<p>本プログラムは、学部生が実験・演習科目を円滑に履修し、科学的な文書を適切に執筆できるよう支援することを目的として、以下の取り組みを実施した。</p> <p>主な実施内容としては、昨年度に引き続き、新規 TA に対して、実験・演習およびレポート執筆に関する指導方法を教授し、指導能力の向上を図る機会を提供した。また、科学的な文書作成を支援するための教育資料の策定・作成を行った。</p> <p>専門的な実験や演習に初めて参加する学部生のような未習熟者にとって、TA による適切なサポートは、実験・演習およびレポート作成の理解促進に有効である。そこで、本プログラムでは、新規 TA への指導能力育成を主目的に、実験・演習・レポート執筆の指導方法に関する情報共有を行うため、SA を雇用した。また、実験に使用する機材の操作訓練に必要な消耗品を購入し、TA 間の情報共有と実技指導の場を設けた。</p> <p>また、学部生による論文やレポートなどの科学的文書作成を支援するため、複数の教材を選定し、その妥当性および有効性について議論・評価を行った。その結果に基づき、学生のレポート作成能力の向上に高い効果が期待できる参考図書を複数冊用意した。</p> <p>知能ロボット工学実験では、本プロジェクトを通して TA らの指導を行うとともに、講義内容を精査し、学生らが実験機材に触れる機会を増やすよう工夫を進めた。こうした試みにより、昨年度よりも学生らの成績は向上した。また学生らのアンケート結果からも、非常に多くの学生が実験講義の内容を理解できたと回答しており、本プロジェクトを通じた試みが学生らの就学意欲の向上につながったものと考えられる。</p> <p>またロボット創造演習では、定められた課題を達成するロボットをグループで作成するという課題を例年執り行った。本講義を円滑に進めるため、SA を雇用し、講義を進めた。当初予定通り、SA によるサポートと TA らが実機に触れることができるように消耗品を購入することによって、受講生らを適切にサポートすることが可能となり、試作したロボット並びにレポート・発表内容の向上につながった。</p>			
今後の展開			
<p>今後、更なる学生らのレポート作成能力の習熟のため、これまでと同様に TA の質向上を目指した取り組みを継続するとともに、レポートの書き方を学ぶためのサポート教材として選定参考図書を学生らに広く開示することで、学生らの自主学習を補助し、更なるレポート作成能力の向上につなげられる機会を増やすことを予定している。</p>			